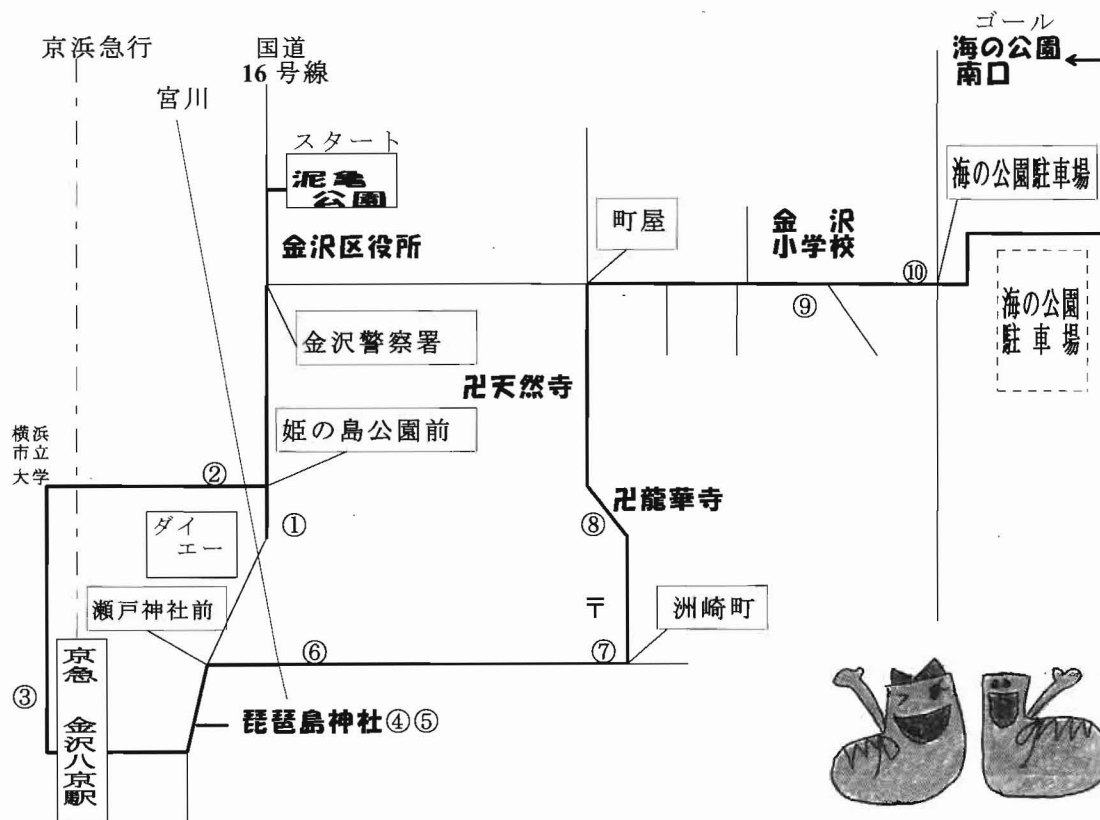


II 「歩くプログラム」で使用する地図の作成方法について

既製の地図をそのまま使用する場合には、用途によって著作物に関する権利が関わってくる場合があります、配慮が必要です。

1 PC文章ソフトの罫線と文字を使って作図する場合 下記作成例1

コース範囲の地図を参考に、歩くコースを中心に罫線を使って略図で描き、必要な情報を文字で入力します。間違いやすい分岐点や分かれ道、交差点表示など最低限の情報を記入して作りますので、小学生などには分かりやすいと思います。



作成例1：PC文書ソフトの罫線と文字で作成した地図

2 手描きで既製の地図の必要な部分を写し取る場合

方法1（地図が比較的簡単な場合）

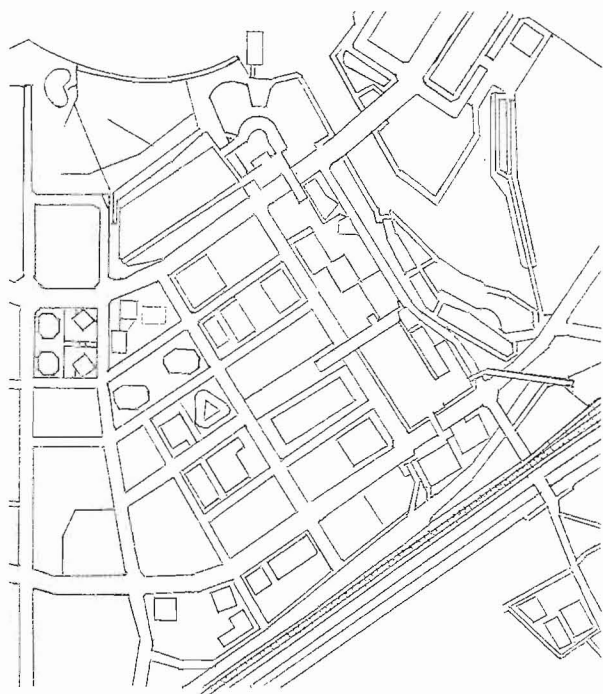
地図の上に薄い紙を重ね、はじめはエンピツで地図を写し取ります。写した後に、ペン書きします。 →方法2③へ

方法2（地図がやや複雑であるが、区画が直線的な場合）P.14作成例2・3

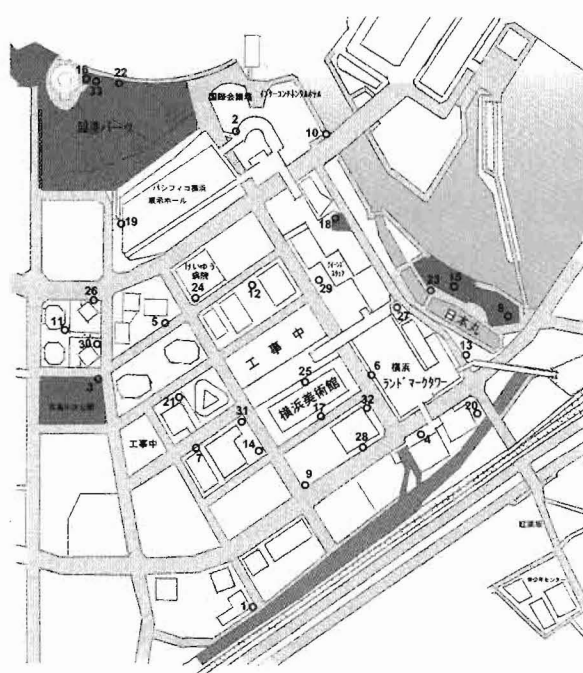
① 工作用紙などの厚紙に既製の地図を重ね、要点となる箇所（建物の角、道路の曲がり角等）に千枚通しなどで穴を開けます。



- ② 方眼紙の穴の開いた部分を既製の地図を見ながら、線でつなげていきます。①、②の作業を繰り返します（始めは鉛筆で書き、後からペン描きします。）。
- ③ 地図を写し終えたらコピーし、方眼紙のマス目等があればきれいに消します。
- ④ ペンなどで道路、建物等に色を塗り、番号などを地図上に記入します。※データ化するのであれば、スキャナで取り込みます。③の段階でスキャナに取り込み、画像編集ソフトなどで着色や番号記入などを行うこともできます。今回はアドビシステムズのフォトショップで彩色、イラストレーターで番号などを記入しました。他のペイント系ソフトで彩色、ドロー系のソフトで番号をつけることもできます。



作成例2：手描き地図をスキャナで取り込み



作成例3：色付けしポイントを書き込み

3 既製の地図を加工する場合

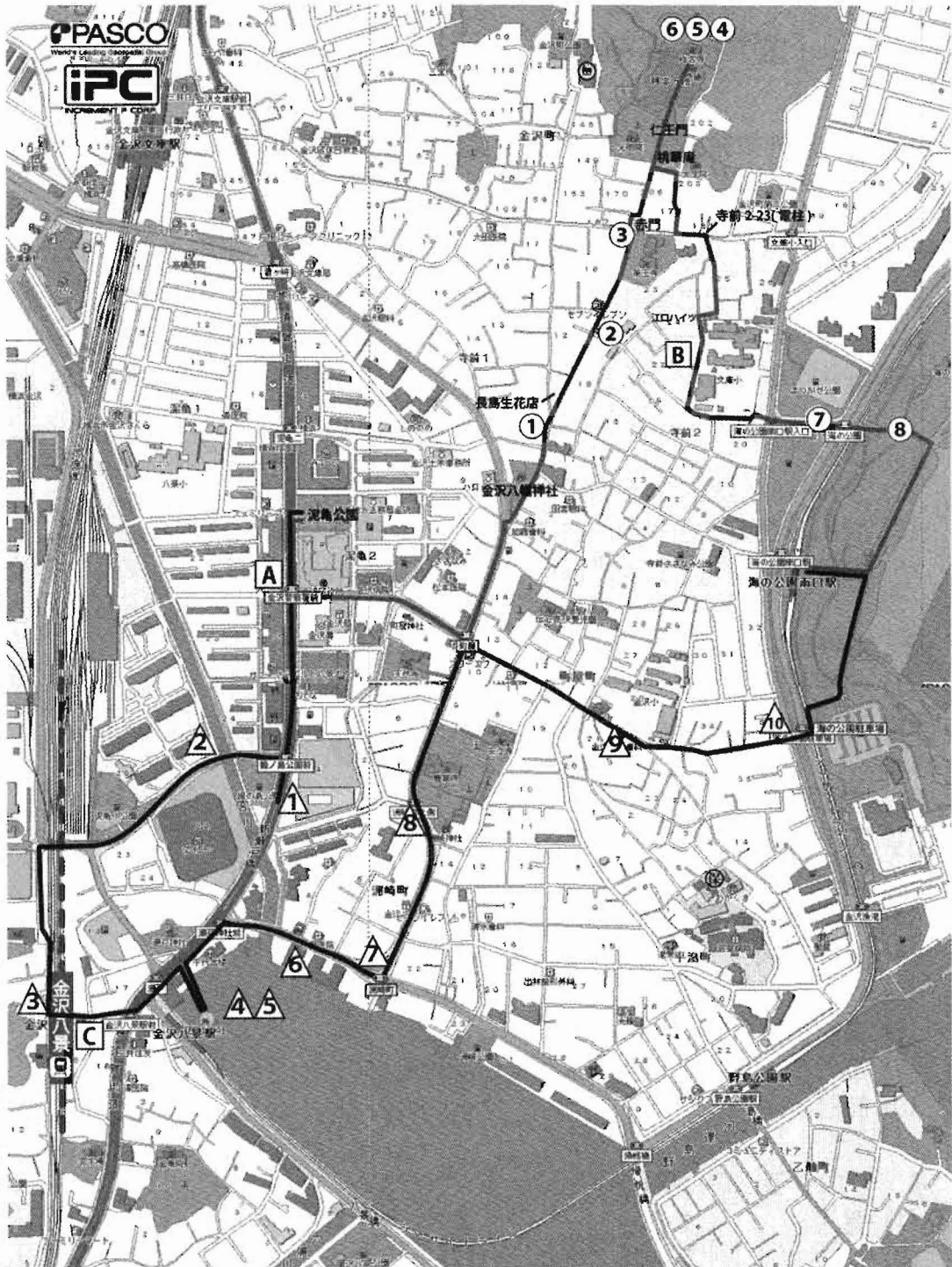
方法1（マイクロソフト社ワープロソフトのワードを使った例）

- ① 地図をスキャナで取り込み、使いたい部分だけを切り取ります。
- ② ワードに貼り付け、ワードアートで番号などを地図上に記入します。
※他社のワープロソフトを使って作成することもできます。

方法2 P.15作成例4

- ① 地図をスキャナで取り込み、ドロー系ソフトで必要な部分だけを選んで、加工します。

この方法では、地図と重ねて印刷する事もできますし、重ねた地図を後から消し、線だけの地図に駅名や交差点名など、必要な情報を入れたものを印刷することも可能です。



作成例4：地図上にドロー系ソフトでコースや番号を書き込む